

2	●巻頭エッセイ 倭館の正月 田代和生
3	表紙使用作品および表紙作家紹介
4	日韓文化交流基金20年のあゆみ
6	訪日・訪韓研修団の見た「日本」と「韓国」
8	第3回日韓歴史家会議
9	●助成事業紹介 「空飛ぶ車いす」の夢のはじまり 佐々木俊一
10	日韓文化交流基金事業報告
12	●フェロー研究紹介 韓国高速鉄道の発展と日本 李 容 相

巻頭エッセイ

倭館の正月

田代和生・慶應義塾大学教授

暮れの慌ただしい日々が過ぎ、正月を迎える段になると心底ホッとする。せめて正月三が日だけは、仕事を忘れて静かな町で寝正月を楽しみたいものだ。大半の現代人にとって、正月はストレス解消の恰好の休日である。

しかし江戸時代に生きた人々にとって、正月ほど忙しい月はなかったようだ。今のような暮れの年賀状書きこそ

ないが、かわって上役や同僚、商人ならばお得意さんの家々を訪ね歩き、新年の祝辞を述べなければならない。来訪された側は、暮れに準備した正月料理を出して、精一杯、応接に明け暮れる。越年の賀状は、遠くにいて直接口上を述べるのでない人へ書かれるばかりでなく、留守中に来訪されて会えなかった詫言状も兼ねている。

江戸時代、朝鮮の釜山浦草梁にあった日本人町「倭館」でも、同様であった。いや倭館だからこそ、もっと多忙な正月を迎えていたといえる。倭館とは、15世紀初め、日本からの使者を迎えるために設けられた客館のことである。江戸時代になると、倭館は客館以外に、商売をするための商館にもなる。10万坪もの敷地内に、400～500人ほどの日本人を抱える巨大な居留地区であり、日本と朝鮮をつなぐ重要な接

点でもあった。住民は、すべて男ばかりである。朝鮮との外交実務や貿易をこなすため、対馬藩から派遣されてきた人々である。

19世紀初め、この地を訪れた使館の正官（正使）小川次郎右衛門（号を秋園戲艸）は、『愚塵吐想』という書物に、たくさんの俳句を残した。そこには、師走から正月にかけて倭館の風情が詠み込まれている。

館中も 響く大筒 年の暮れ

長屋長屋の 棚煤払

これは倭館の師走の大打事、煤（すす）払いのときの句である。何十軒と立ち並ぶ倭館の屋敷は、外見はともかく内装は畳敷きの和風仕立てである。師走の一日、畳をはがして、力まかせにいっせいに叩くと、まるで大筒の音に聞こえたのだろう。

あくた口 けふそ納めの 煤払

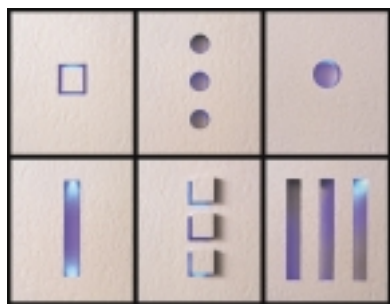
男所帯の倭館暮らしで、それこそたまりにたまった悪態口（あくたぐち＝悪口）を、芥（あくた＝ごみ）とともに吐き出してしまおうという気持ちだ。

晴れて迎えた正月。元旦の朝は、倭



倭館の図（高橋章之助『宗家と朝鮮』口絵より）

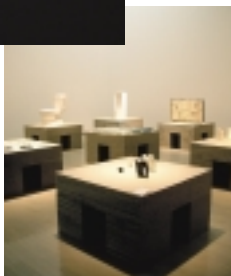
表紙作品



「ザ・ライト - 土と光のハーモニー」
2002 Each H30.3 × W26.0 × D2.5cm
第6回国際陶磁器展美濃陶磁器デザイン部門グラン
プリ受賞作
撮影：Photo office 周



第6回国際陶磁器展
美濃展示風景



「崔宰薫展」(2003
年、岐阜県現代陶
芸美術館)

表紙作家紹介

崔宰薫 (チェ・ジェフン)



1965年韓国生まれ。1990年啓明大学校美術大学産業美術学科卒業。
1993年愛知県立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了。1993年
から現在まで株式会社INAX技術研究所空間デザインセンター勤務。
受賞歴は、第6回国際陶磁器展美濃陶磁器デザイン部門グランプリ(2002
年)、第2回世界陶磁ビエンナーレKOREA生活陶磁部門銅賞(2003年)、
日本グッドデザイン賞(1994年～1999年、2001年～2003年)などがある。
2003年には、第6回国際陶磁器展美濃陶磁器デザイン部門グランプリ受
賞者崔宰薫展(岐阜県現代陶芸美術館/多治見市)とINAXガレリアセラ
ミカ(東京)で個展を開催した。日本陶磁器デザイン協会副理事長。

作品と作家について

「ザ・ライト」は、土の表情をもった陶板を重ねた作品です。土のすき
まから青い発光ダイオードの光がこぼれ、心安らぐ静かで神秘的な表情を
たたえています。

この作品を作った崔宰薫さんは、株式会社INAXで商品開発デザイン、
アドバンスデザインを手がけながら、創作活動が続けているプロダクトデ
ザイナーです。第6回国際陶磁器展美濃で陶磁器デザイン部門のグランプリ
を受賞した本作品を含め、崔さんの作品は高い評価を得ています。

大邱生まれの崔さんは、地元の大学に進学後、自動車デザインに興味を
持っていたことから愛知県立芸術大学に留学し、そこで陶磁器デザインの
世界に出会います。世界的陶磁器デザイナーである森正洋先生というよき
師と出会い、やきもの産業が盛んな土地柄に育まれて、常に挑戦し続ける
姿勢が、崔さんの現在の活躍を作りました。

現在崔さんは、陶磁器デザイン分野の日韓交流でも中心的な役割を果た
しています。これからも、崔さんと、崔さんに続く人びとの手から、二つ
の国の暮らしを美しくしてくれる優れたデザインが生まれてくることでし
ょう。

参考：「崔宰薫展」(2003年、第6回国際陶磁器展美濃陶磁器デザイン部門グランプリ受賞
者個展)パンフレット、個展、「崔宰薫展/土の皮膜・青色の発光」(2003年、INAXガレリ
アセラミカ)パンフレット

館をたばねる館守の所へ挨拶に行かなければならない。上級職であれば、座敷まであがって酒と料理をふるまってもらえるが、並以下の者は、ただ玄関口で名前を記帳するだけである。これが終わると、館や役職ごとに新年の挨拶廻りに忙しい。一日があっというまに暮れてしまう。

古郷も うちより囃や 屠蘇酒哉 故郷のわが家、家族とともにかわした屠蘇(とそ)の味が懐かしい。

二日。倭館は、いつになく騒々しい。恒例の「鉄砲打ち始め」の日である。館守家に、ありったけの鉄砲が集められ、在館する者のうち腕に覚えのある者が小さな的を撃つ。的の模様から、「星打ち」ともいう。みごと当たった者へ、紅白の水引をかけた扇子三本が祝儀がわりに与えられるならわしだ。対馬藩の正月行事の一つであるが、これが異国の地、倭館で行われることに、日本人の武威を重ねる者も多いという。

三日。倭館は、さらに人で混み合う。ひごろ出入りしている朝鮮の役人・通訳・商人たちが、従者を連れて年頭の

挨拶にどっと入館してくるためだ。かれらを酒と料理で接待するだけでない。師走に頂戴した歳暮の返礼品を、懇切な礼状とともに遣わさなければならない。

朝鮮側からの贈品は、酒・米・餅・蜜・果物・魚等々といった食料品がほとんどである。日本側からの紙・硯・煙器(きせる)・提灯(ちょうちん)・鏡・重箱等々、どちらかという日用品が多く、この特徴は年間を通じて変わらない。とくに日本からの音物(贈り物)は、対馬島内だけでまかない切れず、ものによっては京都や大坂などまで発送する。贈る時期に間に合うよう、首尾よく準備しておくことが肝要だ。

宴んことに 礼房みやけ かん椿
おりに膳部を 贈る初鰯
来訪に、手みやげはつきもの。高価な鰯(ぶり)つき膳部(朝鮮式の饗応料理)ごと、持ち込んでくれる豪勢な者もいる。

四日。人々は、東向寺へ集まる。ここは臨済系の、倭館唯一の寺である。江戸時代初期の殿様で秀吉の朝鮮出兵

後の和平交渉を实らせた宗義智(萬松院)以下、歴代藩主の位牌がまつられており、この日が恒例の初詣にあたる。藩への忠誠、それと異国での生活の無病息災を祈る。

東向の 鐘の手をくむ 神迎人
東向寺の鐘は大晦日だけでなく、毎日の時刻を知らせてくれる。僧侶は、漢文の読み書きができる者が選ばれて対馬から派遣される。朝鮮と取り交わす公文書の起草(草案作り)査察・控え記録まで、僧侶の仕事は多彩である。

最後に、倭館前の牧の島(絶影島)の景色を詠んだ「牧嶋暮雪」から。

白雪や 牧の姿も 富士峯
羽も見事な 峯の舞鷹



たしろ かずい

日本と韓国に分割保管される膨大な史料「対馬宗家文書」を35年間にわたり調査・収集する。著書に『近世日朝通交貿易史の研究』(創文社、日本経済新聞図書文化賞受賞)『倭館』(文藝春秋、アジア・太平洋賞受賞)などがある。

日韓文化交流基金20年のあゆみ

日韓文化交流基金は、2003年12月に創立20周年を迎えました。

この20年間の日韓間の交流全体の拡大とともに、

当基金は青少年交流と学术交流の促進・支援を主軸に、事業の幅を広げてきました。

お互いに関する情報や知識の多様化などによって親近感を増しつつある2つの社会において、今後ともさらなる相互理解のための質の高い交流事業を実施していきたいと考えています。

1980

1990

1983.12 日韓文化交流基金設立

1984.9 韓日文化交流基金設立

1984 文化交流訪韓団

青少年交流、交流促進



青少年の交流

1989 大学生・教員等訪日・訪韓研修団

1989 地方セミナー

1997 日韓青少年交流ネットワークフォーラム

研究の支援・推進

1989 フェローシップ

1995 日韓共同研究フォーラム

助成

1985 助成事業

出版・調査研究

1985 調査研究・資料刊行



図書の出版

1989 優良図書翻訳出版事業（文学）

1995 学術図書翻訳出版事業

国際会議

1986 日韓・韓日合同学術会議



研究者・有識者による会議

図書センター

1995 図書センター

その他

1996 広報誌・ホームページ



図書センター

2000

19回実施

1999 日韓文化交流基金賞 4回実施、受賞者は13名

1999 2002年度までに訪日233団体/4590人、訪韓144団体/3050人、
2003年度は訪日11団体、訪韓8団体の実施を予定
8回開催

1999 2回開催

1999 中高生交流事業（中高生派遣・招聘、ボーイスカウト・ガールスカウト交流）
中高生派遣8団体/840人、招聘23団体/1968人、ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業は4カ年で645人（2002年度まで）、2003年度は中高生派遣3団体、招聘5団体、ボーイスカウト・ガールスカウト交流事業の実施を予定

2000 青少年交流ワークショップ 2001 2回開催

訪日は1989年からでのべ411名、訪韓は1992年からでのべ34名

第3次タームまで進行、各期7つのチームで研究を実施

2001 日韓歴史共同研究委員会 全体会議は年2回程度のペースで開催

2002年度までに596件に助成、2003年度は33件に対して助成決定

2001 図書出版助成 単行本7件、学術定期刊行物2件に助成

2003 日韓共同未来プロジェクト 2003年度は27件に対して助成決定

1999 論文等の小冊子刊行、委託研究など

1999 『韓国文学名作選』全4巻を刊行

『韓国の学術と文化』シリーズ14巻刊行、続刊中

2001 日韓関係データベース 「日本における韓国・朝鮮研究 研究者ディレクトリ」を公開

2001 14回開催

1999 日韓文化交流会議 全体会議は4回開催

2001 日韓歴史家会議 3回開催

蔵書数19665冊、利用登録者数のべ2931名（2003年11月末現在）

広報誌は28号刊行

訪日・訪韓研修団の見た「日本」と「韓国」

日韓文化交流基金では、大学生や学校教職員などの訪日・訪韓研修団を、それぞれ年間10～15団体程度派遣・招聘し、韓国側の関係機関と連携しながら、お互いの国の実情に触れ、理解を深めるためのプログラムを実施しています。最近の訪日・訪韓研修団の報告書から、プログラムの中でも中心的な位置を占める、ホームステイと学校訪問への感想と、研修全体や相手国について感じたことなどをまとめてみました。

訪日団

ホームステイ

●家族は私に心から温かく接してくれた。簡単な英語だったが意思疎通のために努力し、自分の家庭についてありのままを見せてくれた。地域特産の石材を使った作品の展示会の見学や海辺の神社の紹介など、地域の特徴と日本文化を感じられるように配慮してくれた。良い経験ができた貴重な機会だったと思う。(初等学校教員、女)

●家に着いたとたん、お母さんは私に着物を着せてくれた。着物姿はなかなか経験できないし、本当に着てみたかったので、願いがかなったことも十分嬉しかったが、お父さんはその姿の私を写真に撮ってくれた。年配の方のご

家庭だったので、訪問する前は、率直に言うと共通の話題が見つかるかどうか心配だった。でも私の予想と全然違って、その夜は3人で時間も忘れておしゃべりで盛り上がった。(大学生、女)

学校訪問

●生徒たちは好意的で、「アンニョンハセヨ」「サランヘヨ」と韓国語で言いながら明るく笑いかけてきた。一昨年のサッカーW杯日韓共催大会で、日本では韓国に対する関心が高まったようで、生徒たちは心を開いて話し、あいさつをしてくれた。21世紀には、開かれた若い世代によって古い感情が変わっていくだろうと思い、微笑まし

かった。(中学校教員、女)

●私が会った日本の学生たちは、過去の日韓関係について知り、これからの両国の関係についてもきちんと考えていた。日韓関係だけでなく国際関係の問題についても真剣に討論して、有意義な時間を過ごすことができた。日本の学生たちが学生同士の交流に積極的に参加している姿が印象的だった。(大学生、女)

全般

●日本と韓国を繋ぐこのような行事が継続されることを願う。日韓両国とアジアが同質性を深く認識して世界の中で中心的な役割を担うことができるよう、相互に理解して努力していきたい。(高校教員、男)

●日本語や日韓関係についてもより熱心に考えて勉強していきたい。韓国に来る日本人の友だちのためにボランティアもしてみたい。また、多くの日本人の友だちと付き合っていきたい。(大学生、男性)

●ホームステイや学生交流を通じて、「日本」と「日本人」を区別するようになった。「日本」は正直に言うともまだ好きでないという考えを持っている。しかし「日本人」はとても好きになった。(大学生、男性)



ホームステイ先の地方でのプログラム
(大学生)



学校訪問—授業視察(教員)

訪韓団

ホームステイ

●（ホストの）家族とテレビを見ていたとき、「寒いから」とお父さんが布団を持ってこられ、みんなでその一枚の布団の中に足を入れた。その空間に自分もいることがとても幸せだった。（大学生、女）

●お母さんが料理の上手な人で、私が「マシッソヨ～！」と言うと、いつもにこにこ笑って「カムサハムニダ」と言ってくれた。これが2人の合言葉のようになった。（大学生、女）

●家に案内されるまで不安だったが、玄関のドアに「○○さん、いらっしゃいませ」と日本語で貼ってあるのを見て、うれしくて、とても温かい気持ちになった。（中学校教員、女）

●本当にたくさんの気持ちをいただいたのだが、自分の心の中から溢れ出した感謝の気持ちが、にわか覚えの韓国語の「ありがとう」では伝えきれないのが、とてもはがゆく悔しかった。（小学校教員、男）

学校訪問

●自分と同年の学生が「僕は来年、軍隊に入ります。本当はもっと勉強したいのに」と言った一言が忘れられない。（大学生、女）



韓国の大学生との交流（大学生）

●韓国の学生も、日本の学生と同じように自分の将来や日常の様々な出来事に一喜一憂していたことがわかり、どこの国でも一緒なのだと感じた。（大学生、女）

●各教室に大画面のモニターがあり、パソコンによる授業展開が行われるなど、効率の良い工夫がされていることに驚いた。（高校教員、男）

●高校を訪問し、日本語を学ぶ生徒や、私たちに質問する生徒の真剣な表情に、日本に対する興味や関心の高さを感じた。（高校教員、男）

●韓国側教師との討論や雑談の中で、生徒に対する思いが同じであることを感じる事ができた。様々な情報が渦巻き、変化の早いこの時代、教師として生徒に伝えなければならないことを必死に模索していることに共感し合った。（高校教員、女）



ホームステイ先の家庭で（教員）

全般

●今まで、言葉が足りなくて誤解を招いたり、他人に自分の意見を否定されるのがいやで、戦争や日韓の歴史などについての発言・議論を避けがちだった。しかし、理解の一步は自己表明であるということと一緒にいったメンバーを見ていてひしひしと感じた。（大学生、女）

●出会った人は、自分を日本人という色眼鏡をかけて見ることはなく、人間の部分を見てくれた。自分もまた一般的な韓国人のイメージとは別に個々人の人間性というものがあることを身をもって知ることができた。（大学生、男）

●韓国の方々の自国文化に対する理解の深さ、文化を大切に思う気持ちが印象的だった。（教育関係者、女）

●韓国から帰り、学校に戻った私を学級の子どもたちが「韓国クイズ」で迎えてくれた。韓国の衣食住や歴史をそれぞれが調べていた。自分が訪韓したことで34人の子どもたちが韓国に興味を持ってくれたようだ。（小学校教員、女）

第3回日韓歴史家会議

10月24～26日の3日間、ソウルのルネッサンスホテルで、第3回日韓歴史家会議が開催されました。

この会議は、1997年より3年間活動を行った「日韓歴史研究促進に関する共同委員会」の提言を受け、日韓両国の歴史研究者が相互に対する理解を深め、交流と協力の輪を広げる両国歴史研究者間の「交流の場」を設けることを目的に2001年に設置されたものです。これまでに開かれた2回の会議

では、「1945年以後の日韓両国における歴史研究動向」「世界史の中の近代化・現代化」を主題として、日韓間の関係にのみとられることなく、歴史学という大きな枠組みの中で幅広い意見の交換が行われてきました。

3回目となる今回の会議では、「ナショナリズム：過去と現在」を主題とし、3つのセッション別に、日本史、韓国史をはじめヨーロッパ史や中東史を専門とする両国の研究者が、発表・討論を行いました。

第1セッション「世界化とナショナリズム」では、世界化とナショナリズムの関係、民族意識と実体に関する問題が議論されました。第2セッション「アジアナショナリズムの展開過程」では、アジアナショナリズムの特性と地域的展開過程を浮き彫りにすることを目的に、ナショナリズムとイデオロ



総合討論（10月26日）

ギー、ナショナリズムと植民主義などに関する考察を行いつつ、日本と韓国のナショナリズムについての議論が行われました。また、第3セッション「歴史叙述とナショナリズム」では、自国史に対する情緒的愛着と客観性の問題、世界史と国家史との関係、「国史」叙述の理念的基盤の妥当性などが検討されました。

会議初日の24日には、本会議の開催を記念し、「歴史家の誕生」と題する講演会が開催されました。日本側からは中塚明奈良女子大学名誉教授が、韓国側からは李基白韓国学術院会員がそれぞれ、「私の近代日本史研究」「韓国史の真実を求めて」と題して講演し、自身の歴史家としての歩みについて語りました。

日 程

10月24日（金）

公開講演会「歴史家の誕生」
李基白（韓国学術院会員）
中塚明（奈良女子大名誉教授）

10月25日（土）

1. 世界化とナショナリズム
司会：李柱郭（建国大）
報告1：崔甲壽（ソウル大）
「ナショナリズムの起源と特性」
討論1：西川長夫（立命館大）
報告2：栗田禎子（千葉大）
「国際主義とナショナリズム」
討論2：鄭容郁（ソウル大）
全体討論
2. アジアナショナリズムの展開過程
司会：劉仁善（ソウル大）
報告1：朴賛勝（忠南大）
「韓国の民族主義」
討論1：月脚達彦（東京外国語大）
報告2：加藤陽子（東京大）
「日本のナショナリズム」
討論2：趙明哲（高麗大）
全体討論
3. 歴史叙述とナショナリズム
司会：柳永益（延世大）
報告1：李基東（東国大）
「『国史』(national history)：どのように書くべきか？」
討論1：小路田泰直（奈良女子大）
報告2：伊集院立（法政大）
「文禄の役における世界史と自国史」
討論2：朴枝香（ソウル大）
全体討論

10月26日（日）

4. 結論——ナショナリズムの展望
司会：車河淳（西江大）
総合討論

参 加 者

日本側（敬称略・50音順）
伊集院立（法政大・ドイツ現代史）板垣雄三（東京大名誉教授・イスラム史）加藤陽子（東京大・日本近代史）榎山紘一（国立西洋美術館・西洋中世史）木畑洋一（東京大・イギリス現代史）久保亨（信州大・東洋近代史）栗田禎子（千葉大・中東エジプト史）小路田泰直（奈良女子大・日本近代史）佐々木隆爾（日本大・日本現代史）柴宜弘（東京大・バルカン史）月脚達彦（東京外国語大・朝鮮近代史）中塚明（奈良女子大名誉教授・日本近代史）西川長夫（立命館大・比較史、比較文化論）西川正雄（専修大・ヨーロッパ現代史）濱下武志（京都大・アジア近代史）濱中昇（神田外語大・朝鮮史）宮嶋博史（成均館大・朝鮮史）李成市（早稲田大・朝鮮史、東北アジア史）

韓国側（敬称略・가나다順）
姜玉楚（仁荷大・西洋史）高柄翊（韓国学術院・中国史）高恵玲（国史編纂委員会・韓国史）金基鳳（京畿大・西洋史）金榮漢（西江大・西洋近世史）金容徳（ソウル大・日本史）

閔賢九（高麗大・韓国中世史）朴元鎬（高麗大・中国史）朴枝香（ソウル大・西洋史）朴賛勝（忠南大・韓国現代史）裴永洙（ソウル大・西洋史）白永瑞（延世大・中国史）白仁鎬（西江大・西洋史）徐鍾泰（韓国教会史研究所・韓国近代史）徐珍教（西江大・韓国近代史）孫承喆（江原大・韓日関係史）安秉佑（韓神大・韓国中世史）安澤濤（ソウル大・美術史）吳星（世宗大・韓国近代史）柳永益（延世大・韓国現代史）劉仁善（ソウル大・ベトナム史）李基東（東国大・韓国古代史）李基白（韓国学術院・韓国史）李敏鎬（ソウル大名誉教授・西洋史）李元淳（ソウル大名誉教授・歴史教育）李章雨（西江大・韓国中世史）李柱郭（建国大・アメリカ史）李泰淑（慶熙大・西洋史）李賢恵（翰林大・韓国古代史）鄭容郁（ソウル大・韓国現代史）鄭鉉栢（成均館大・ドイツ史）趙明哲（高麗大・日本史）趙秉漢（西江大・中国史）車河淳（西江大・思想史）崔甲壽（ソウル大・西洋史）崔起栄（韓国教会史研究所・韓国近代史）韓哲昊（東国大・韓国近代史）咸東珠（梨花女子大・日本史）許東賢（慶熙大・韓国近代史）

「空飛ぶ車いす」の夢のはじまり

佐々木俊一 日本社会福祉弘済会

尹秀美（ユン・スミ）ちゃんは、ソウル郊外の障害児生活施設「ハンサランマウル」で家族と離れて暮らしています。10月1日、彼女は車いすで日本にやってきました。「空飛ぶ車いす」のセミナーに参加して、「ハンサランマウル」に贈られた車いすを修理した高校生をはじめとする日本のボランティアたちと交流するためです。

「空飛ぶ車いす」とは、アジアの障害者に日本では使われなくなった車いすを修理して贈るボランティアたちのリレーです。日本の高校生が車いすを修理し、成田空港から旅行者がアジアへ運び、空港で現地のボランティアが受け取り、ようやく利用者の元へ。このように1台の車いすは多くの人の手渡しで運ばれますが、ボランティアがお互い顔を合わせることはほとんどありません。高校生には利用者の写真が届きますが、不具合や故障はないか技術者としての気遣いは尽きません。贈られた側でも「足長おじさん」は誰なのか気になります。お互い会いたいという思いの実現が「空飛ぶ車いすの恩返し」セミナーです。今回は、アジア4か国から5名の車いすの方と14名のボランティアが参加しました。

秀美ちゃんは、やはり車いすで韓国から一緒にきた尹善姫（ユン・スンヒ）さんと相模原工業技術高校、大森工業高校を訪問しました。車いすの利用者が修理高校を訪問するのは初めてで、両校では2人を心待ちにしていました。当日は、生徒も教員も、車いすの



東京ディズニーランドで大森工の生徒やOBと楽しい時間を過ごす尹秀美ちゃん



セミナーには海外からのゲストのほか、高校生、ボランティアが顔をそろえた

2人も笑顔が絶えませんでした。贈った車いすが再び空を飛ぶとは、誰も予想していませんでした。高校生は活動の成果を確認できて少し誇らしい気分です。

大森工を会場に開催した4日のセミナーには、大森工、栃木工業高校、新居浜工業高等学校の生徒、ボランティアなど約200名が参加し、3校の海外ボランティア発表、ゲストの報告が行われ、「僕たちの車いすを大切にしていることがわかりました」「アジアの国がすごく近くなりました」など、参加者は自分の役割と「空飛ぶ車いす」の意義を再確認できました。

秀美ちゃんたちには5泊6日はハードな日程でしたが、最終日には東京ディズニーランド訪問という大きなプレゼントがありました。車いすの5人には、仲良くなった大森工生が付き添いました。車いすで乗れるアトラクションは限られていますが、TDLは友だちと一緒にいるだけでも楽しいのです。

この日秀美ちゃんたちが見せてくれた「笑顔」が交流セミナーの成果です。

TDLに駆けつけた大森工OBは、今回秀美ちゃんたちに会って、「空飛ぶ車いす」の意味がわかったと言います。在学中熱心に活動に参加していたOBたちでも「空飛ぶ車いす」の意義を理解することは難しかったのです。しかし、秀美ちゃんたちと一緒にいると、初めて会う間でも旧知のような親しみを感じ、自分も楽しみ、修理はこの「笑顔」に出会うためだと気づいたのです。

10月4日は、車いすの提供者、修理する高校生、旅行で運ぶ人、受け取る人、利用してくれる人、支援者が点から面になった記念すべき日です。そして新たな「空飛ぶ車いす」の夢のはじまりです。

ささき しゅんいち

日本社会福祉弘済会で栃木工（タイ）、新居浜工、大森工（韓国）の「海外車いす修理ボランティア」を支援。平成11年から「空飛ぶ車いす」を提唱。車いす海外輸送とアジアとの連絡・調整担当。

2004年度上半期助成申請受付 【人物交流分野】

2004(平成16)年度上半期(2004年度全期間対象)の助成申請期間は、2004年1月5日から1月30日までの期間です。なお、図書出版助成の申請は、2003年12月15日で締め切りました。

図書センター ホームページリニューアル

図書センターでは12月にホームページをリニューアルし、日・韓両国語による所蔵資料検索などの機能が加わりました。

ブラウザで日本語・韓国語が表示で

きるパソコンからは、すべての所蔵資料をタイトル・著者名などに一致する語句や、分類から検索できるようになりました。また、新着図書や開館日の情報もリアルタイムでご覧になれます。ぜひご利用ください。

<http://www.jkcf.or.jp/library/index.html>



図書出版助成

- 『韓国朝鮮の文化と社会 2』韓国・朝鮮文化研究会(2003年10月刊行・学術定期刊行物)
- 『現代韓国朝鮮研究 第3号』現代韓国朝鮮学会(2003年11月刊行・学術定期刊行物)

図書センターはホームページを一新し、充実した所蔵資料検索機能が備わりました

訪日団

団体名	計	男	女	期間	団長
高等学校日本語教員	20	5	15	10/28-11/06	趙成範 慶福女子情報産業高等学校教諭
大学生(3)	20	10	10	11/04-11/13	宋堯淳 全南大学校工科大学応用科学工学部教授
大学生(4)	20	9	11	11/04-11/13	李文洙 培材大学校衣類ファッション学部教授
済州青年	20	3	17	11/12-11/21	金鸞姫 済州大学校人文大学日語日文学科教授

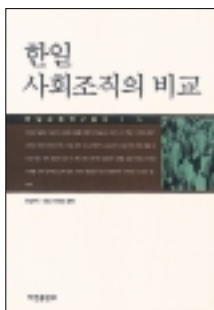
訪韓団

団体名	計 ¹	男	女	期間	団長
東京都教員	17	10	7	10/7-10/16	黒崎一朗 東京都教育庁人事部副参事
広島県教員	20	15	5	11/11-11/20	佐々木哲夫 広島県教育委員会事務局教育部指導第一課教育指導監

1 引率含む

日韓共同研究フォーラム

日韓共同研究フォーラムの研究成果として刊行された、『韓日社会組織の比較』韓国語版（亜研出版部）が、韓国学術院の2003年度基礎学問分野優秀学術図書（韓国学分野）に選定されました。



日韓歴史共同研究委員会

11月29日（土）京都リサーチパークにおいて、「日韓歴史共同研究委員会」の第4回全体会議が開催されました。分科会ごとのこれまでの調査研究進捗状況を中心に報告が行われ、共同研究計画推進のための諸策について意見交換がなされました。

報告書

以下の事業の報告書が完成しました。

- 訪韓学術研究者論文集 第四巻（2002年4月～2003年3月）
- 訪日学術研究者論文集—一般— 第十巻（2001年4月～2003年3月）
- 訪日学術研究者論文集—歴史— 第七巻（2001年9月～2003年3月）



中高生訪日団

団体名	計 ¹	男 ²	女 ²	訪問校	期間	団長
高校生（3）	96	33	57	大阪府立吹田東高校、千里高校	10/21-10/25	洪俊杓 忠北芸術高等学校校長
1 引率含む 2 生徒のみ						

中高生訪韓団

団体名	計 ¹	男 ²	女 ²	訪問校	期間	団長
福井県中学生	109	31	69	大明（デミョン）中学校	11/12-11/16	吉田和雄 福井市立至民中学校校長
秋田県高校生	109	43	56	盤浦（バンポ）高等学校	11/27-12/1	柴田義弘 秋田県教育庁教育次長
1 引率含む 2 生徒のみ						

韓国高速鉄道の発展と日本

李容相

日本の東海道新幹線が開業した1964年は、高速鉄道の営業運転が初めて始まったという点で世界の鉄道史上においてエポックメイキングとなった年である。日本の東海道新幹線の成功に触発されて、1981年にはフランスがTGVを、また1991年にはドイツがICEの営業運転に踏み切り、世界は高速鉄道の時代に入りました。2000年現在、日本は2,152.9kmの新幹線の営業路線を有し、世界最高営業運転速度は、山陽新幹線の時速300kmである。一方、韓国では現在、2004年4月のソウル～釜山の高速鉄道開業を目指して最終走行実験が行われている。韓国ではこれまで道路中心の交通体系の形成が図られてきたが、近年、道路の混雑によりコストが激増してきている。また、自動車通行量の増大に伴い環境問題も深刻となってきている。こうした問題に対処



韓国高速鉄道KTX

するため、ソウル～釜山間の鉄道輸送力の抜本的な改善を目的として、京釜高速鉄道計画が推進されるところとなった。

京釜高速鉄道（最高運転速度時速300km）は、二段階方式で進められている。第一段階は2004年4月の開業である。この段階ではソウルから途中の大邱までは新線を建設するが、大邱～釜山間174.2kmは在来線を利用して開業される。このため、ソウル～釜山間(409.8km)の所要時間は2時間40分の計画となっている。現行のソウル～釜山間の最速特急の所要時間は4時間10分なので、90分の時間短縮となる。第二段階の開業目標年度は2010年である。第二段階では、大邱から東進し、観光都市としても有名な慶州を経由して釜山までの新線が整備される予定となっている(412km)。これが完成すれば、全線にわたって新しい専用路線が用いられるため、ソウル～釜山間の所要時間は1時間50分に短縮されることになる。

京釜高速鉄道の開通は、韓国の交通システムに画期的な変化をもたらすことになろう。高速鉄道の開通で鉄道は航空機や高速バスとの競争で優位に立

ち、後述するように航空旅客やバス旅客、とりわけ航空旅客の多くが鉄道に転移すると見込まれている。韓国ではこの他、京釜高速鉄道の整備とならんで、大田から西海岸の木浦までの湖南線256.3kmの電化・改良工事が進んでいる。京釜高速鉄道の開業と同時に同線にも高速鉄道を走行させるための改良工事である。現在、ソウル～大田～木浦間の鉄道所要時間は4時間30分であるが、高速鉄道の走行が可能になれば1時間30分短縮され3時間となる。これにより、韓国では首都圏と主要地域を連結するいわゆるX型の高速鉄道ネットワークが構築されることになる。

現在、韓国、中国を含む東アジア諸国の高速鉄道は国ごとに異なるシステムの下で計画・整備され、開業されようとしている。車両一つとっても、日本の新幹線200系は幅が3,380mm、高さ4,000mmであるが、韓国的高速鉄道は幅が2,814mm、高さが3,475mmと日本の車両の方が一回り大きいのである。しかし、将来的には例えば中国と朝鮮半島間で高速鉄道の相互運行が行われ、国を跨って高速列車が運行される時代が来る可能性もある。やがては日本を含む東アジアの諸国が車両システムや信号システムの差を克服し、相互運行に向けて技術協力をしあう時代が到来するかもしれない。



イ ヨンサン

韓国鉄道技術研究院責任研究員。現在、関西大学商学部（2003.7～2004.6）で訪日研究中。筑波大学博士学位取得（交通政策）。韓国鉄道技術研究院、企画調整室長、韓国建設交通部国家交通委員、韓国鉄道学会企画理事、日本交通学会会員、日本鉄道史学会会員。

韓国の京釜高速鉄道の概要

項目	内容
総延長	約412km
駅数	ソウル、南ソウル、天安、大田、慶州、大邱、釜山の7駅（駅間平均距離58.8km）
路線設計	最小曲線半径7,000m、最急勾配25/1000 ゲージ1,435mm、トンネル断面積107㎡
形式	複線、交流電化、全面立体交差
最高速度	300km/h
所要時間	1時間50分（現行：4時間10分）
建設費	約1兆8,430億円（44.7億円/km）

（出典）韓国建設交通部「京釜高速鉄道運営基本計画」（2002年）

基金ホームページURL

<http://www.jkcf.or.jp>

発行 財団法人 日韓文化交流基金

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5丁目12番1号

虎ノ門ワイコビル3F

電話 03-5472-4323 FAX 03-5472-4326

発行日 2004年1月9日